

知財の世界に飛び込んで

「知財部に異動しないか」。入社4年目。それまで工場を駆けずり回る部署にいた私にとって、まさに青天のへきれきだった。しかし、次の瞬間にはこう答えていた。「行きたいです！やらせて下さい!!」。入社当初、配属された部署では、当社のシリコンウエーハ製品の中でも、まだ自動化に至っていない製品の流動や評価、不具合調査等を担当した。何が何でもお客さまの要求に答えるために、営業・開発担当者、生産現場と調整しながら工場中

凛としていきる

## 理系女性の挑戦

### 技術者の成果世の中に公表



を駆けずり回る毎日。多くの人たちと連携し、要求通りの品質と納期で製品を出荷できたときには、何とも言えない達成感があった。一方、仕事に慣れてきたころ、何か手に職

をつけたいと考えるようになった。そんな折に突然声がかかった。不安もあるが、やりがいはある。私のやる気を買って異動を後押しして下さった上司に感謝し、知財の世界に飛び込んだ。

しかし、知財部の仕事は、想像と全く異なっていた。出願、権利化業務を主として、特許調査や年金・報奨

金業務など、どれも初めてのことばかりで毎日必死に食らいついた。落ち込むこともあったが、工場でお世話になった技術者の方々の努力や成果を世の中に公表できるすてきな仕事だと思った。

それでも、「知財は大事なんだけれども面倒くさい」という声を聞くことは少なくない。事実、異動前に私自身が感じていたことだ。こつした感覚を新鮮な状態で持っている私だからこそ、できることがあると思う。その一つとして、できる

限り分かりやすい表現で技術者とやりとりするよう心掛けている。その結果、特許提案のハードルを徐々に下げることができているように感じる。まだまだ修行が必要だが、一緒に検討した出願が特許され、技術者に報奨金が入るだけでなく、将来的に業界の発展につながるような財産になれば、こんなにうれしいことはない。

こつと頑張ってきた

企画協力・日本女性技術者フォーラム(JWEF)

(火曜日に掲載)

グローバルウエーハズ・ジャパン技術部基盤技術グループ知的財産主事

金田 有理



〈プロフィール〉 龍谷大大学院工学研究科物質化学専攻修士。会社分割・統合を経てグローバルウエーハズ・ジャパン\*で現職に従事。\*JWEF 法人会員。